

領域	評価の観点	評価項目	実践目標	自己評価					成果	課題	改善策	学校関係者評価委員意見
				平均	4	3	2	1				
教職員の資質向上	学習指導力及び生徒指導力の向上	14	公開授業等を実施し、学習指導力の向上を図る。	2.9	12.8%	68.1%	19.1%	0.0%	・公開授業週間の実施は、とてもよいことである。	・公開授業については、もう少し期間を延ばすなど対応が必要と思われた。実際に行く時間がとれなかった。	・指導の姿勢として、教師の向上心が必要である。生徒を幸福にするためには、教師の成長しかない。	
		15	校内研修及び校外研修の実施	3.0	14.9%	74.5%	10.6%	0.0%	・他の先生の研修の報告を聞き、クラスの生徒にもあてはまることもあり、とてもよかった。生徒指導にも生かせると感じられた。 ・校内研修が充実している。	・テーマを決めてきちっと研修すればもっとよい。 ・新転任者研修が少ない。 ・日常業務が忙しく校外への研修に行きにくい。		・初任者だけでなく、定期的に研究授業などがあれば良いと思う。 ・校内研修をもっと増やしていく。
	特別支援学校のセンター的機能の充実	16	併設する高等学校のみならず、地域の小・中学校及び近隣の夜間定時制高等学校等、幅広い教育相談を実施し、支援や助言を機能的に行う。	3.0	13.0%	71.7%	13.0%	2.2%	・教育相談の依頼があった場合は、コーディネーターが協力して相談の対応をすることができた。 ・コーディネーター中心に多くの学校の支援ができた。	・高校への支援内容の充実(個別的教育支援計画の書き方や具体的な支援の方法、事例研修を通しての生徒の理解) ・実践で得た事例を他の職員と共有していくこと。	・今年度の取組をベースに考える。対処法だけでなく、特別支援教育の進めていくことのメリットを紹介していく。 ・事例を定期的に配布し、学習会を開く。	
		17	併設の高等学校の授業で講師として講演を行い、ノーマライゼーションの推進に取組む。	3.2	32.6%	58.7%	6.5%	2.2%	・ノーマライゼーションの講師として計画通り講演や対人援助の授業を行うことができた。	・ノーマライゼーションについては例年の流れができあがりつつあるが、講演の内容等の見直しが必要である。	・ノーマライゼーションのテキスト作りや教材の工夫。	
危機管理体制の整備	危機管理意識の向上	18	危機管理マニュアルの活用や研修会の実施により教職員が危機管理意識の向上を図る。	3.2	25.5%	70.2%	4.3%	0.0%	・細かなところまでマニュアルにあり、安全対策ができています。 ・4月に全職員への周知のため研修を行った。 ・けむり訓練、昼休みの避難訓練など新たなものに取り組めた。 ・3月に不審者対応訓練を予定している。	・マニュアルを読み込まないと分かりにくい。 ・教職員への危機管理意識を向上させることが難しかった。 ・不審者への対応。	・マニュアルとは別に簡素化したものを提示する。 ・もっと教職員向けの研修会を開催し、意識を高めることが望ましい。 ・3月に研修を行うが、警察も巻き込んだ研修を行う。	
PTA活動	保護者との連携充実	19	主体的なPTA活動のため、保護者との連携を図る。	3.2	22.9%	70.8%	6.3%	0.0%	・PTA部会や懇談会等で保護者との連携を図った。 ・PTA活動が活発になってきた。	・PTAの方々は頑張ってくださっているが、より一層主体的な取組。 ・PTAが主体者になった運営。	・年数の蓄積と引き継ぎが大切である。 ・保護者の主体性を引き出す。	
教育課程	基礎・基本の定着と主体的な学習活動	20	生徒一人一人の障害の状態や発達の段階、特性を把握して、合理的配慮の観点で踏まえ、個別の指導計画を作成し、個に応じた指導を行う。	3.2	23.4%	70.2%	6.4%	0.0%	・個別の指導計画は作成しているが、個々の生徒に合った具体的な指導は書きにくい。 ・個々の生徒に成果が見られる。 ・問題をかかえた生徒に十分すぎる程配慮していると思う。 ・全ての生徒に計画書等がきちんと配布できている。	・個別の指導計画の様式、合理的配慮する必要がある場合の記入方法を検討する必要がある。 ・合理的配慮の観点に関して共通理解はなかったように思う。 ・書く人の主観が見られる。 ・生徒の実態把握がまだまだ足りない。	・共通する基準があればよい。 ・ゆっくりと作成できる時間の設定。	
	特色ある教育課程の編成	21	キャリア教育についての理解・推進を図るとともに、社会人として主体的に生活を営むことができる力を育成するための教育課程を編成する。	3.2	27.7%	68.1%	4.3%	0.0%	・年ごとに教育課程が見直され、完成されたものになっている。	・担当者が変わっても指導が継続できるようにする。	・教材を体系化し、教科書のようなものを作る。	
	総合的な学習の時間	創意工夫を生かした取組	22	生徒の実態を踏まえた課題を設定し、計画的に取り組む。	3.1	21.3%	72.3%	6.4%	0.0%	・チャレンジタイムが導入された。 ・たくさんの経験を生徒にさせることができています。	・生徒の実態把握がまだまだ足りない。 ・集中力が持たない。 ・調べ学習、発表準備の時、入力するパソコンが少ない。	・計画書を提出させ、中間発表を行う。
課題教育	阪神昆陽高等学校との交流及び共同学習	両校の共同体制の構築	23	交流及び共同学習に係る委員会等を実施し、両校職員の共通理解を図る。	2.8	10.6%	63.8%	23.4%	2.1%	・共同の委員会を開催しているが、単に現状報告会になったり、共同のそれぞれのタイプについての認識や考えが違い、個人的な意見に流れたりしているように感じる。 ・特に特支の出席率も悪く(授業でしかたがない)になっているところがある。 ・共同に対する教員のモチベーションが低い。 ・タイプBで同じ教科を抜けることになってしまう。 ・生活体験発表会での両校の打合せがあまりできなく、情報共有ができていなかった部分があった。 ・生徒は、高校生に対してのマイナスのイメージが強く残っていると思う。 ・一緒に活動したいが時間があわない。(他1) ・種目によるが、全てが交流するのは難しい。	・タイプA～Dの目的を明確にしないと会議しても評価がぶれる。年度当初に勘違いがないように確認をする(管理職も含む)。 ・交流そのものの難しさはあるが、交流とは何か、何を目指しているのかを再確認する必要がある。 ・校内でざっばらんに話せる機会。少人数でのお茶会などを通じて相互理解を図る。	・高等学校との共同学習や共同の学びは、阪神昆陽の目玉であり、重点的に力を入れてもらいたい。他のところでは実施していない、バイオニアのため、大変であることは想像できるが、踏ん張っていただきたい。
		共同の学びの拡充	24	両校生徒が共に学ぶ教科・科目や学習形態等について、研究等を進めながら、その拡充を図る。	2.7	8.5%	59.6%	29.8%	2.1%	・高校に合わせた部活動の時間に設定し、機会がある時に練習している。(陸上部) ・競技力の向上が意識の変化につながった。 ・部活動で、違う部を担当しているが、生徒が同じ立場で活動することで、高校の生徒から挨拶されるようになった。 ・共同で部活動を行うことで、生徒の活動の世界が広がった。 ・美術部では、高校と別の時間で開催しているので、交流はないが、互いの作品を見合うことはあった。 ・毎年よいものになってきている。	・打合せ等の日程を決め、内容の共通理解を図る。 ・16:30からの部活動で十分に交流していない部については、15:40からにしてもよいと思う。定時退勤日や勤務時間との兼ね合い。 ・月または週に数回(1、2回)高校の部室と同室で活動する。	・外から見ると、強みは2つの学校が同じ敷地にあること。両校が交流する意義がどこにあるかを確認する時期にきている。両校でこれを目指して頑張ろうという強みが発揮できる活動になる。
		共同の学校行事の拡充	25	校内で実施する行事だけでなく、芸術鑑賞会等、校外で実施する行事についても、両校共同で行うよう取組を推進する。	3.2	27.1%	62.5%	10.4%	0.0%	・デートDVやLGBTなど、今注目されているテーマの学習を行うことができた。(他1) ・今年度の人権学習は内容がよかった。 ・人権意識がめばえてきている。 ・ノーマライゼーションで異なる価値観に対する勉強をすることができた。	・人権問題の学習の幅が広い。 ・自分の問題であるという意識はまだ低い。	・普段の授業から時事的な人権問題に入れる。 ・職員全員参加での人権HRをする。
	両校生徒による部活動の実施	26	同じ部活動において、両校生徒が、ともに練習等に取り組む、交流や相互理解を深める。	3.1	33.3%	50.0%	14.6%	2.1%	・単独での訓練も増え、煙脱出体験や昼休み中の訓練等より様々な場面での避難訓練を行うことができた。(他4) ・被災教員の話聞けることは貴重な機会である。 ・生徒に防災意識が身についている。	・さらに、不測の事態など、多様な状況下で訓練を実施する必要がある。 ・訓練や全体学習の時だけで終わらせない。	・地震下の火災発生や多くの怪我人が出たという想定時の訓練を行う。 ・放送ができない時の訓練をする。 ・震災体験を語り続ける。	
人権教育	自己実現と共生をめざす人権教育の推進	27	人権学習を通じ、共生社会の実現に向け、男女の平等や異なる価値観に対する相互理解を図る。	3.2	22.9%	75.0%	2.1%	0.0%	・デートDVやLGBTなど、今注目されているテーマの学習を行うことができた。(他1) ・今年度の人権学習は内容がよかった。 ・人権意識がめばえてきている。 ・ノーマライゼーションで異なる価値観に対する勉強をすることができた。	・人権問題の学習の幅が広い。 ・自分の問題であるという意識はまだ低い。	・普段の授業から時事的な人権問題に入れる。 ・職員全員参加での人権HRをする。	
防災教育	防災学習及び防災訓練の充実	28	体験的な防災学習を含め、様々なケースを想定した防災学習や防災訓練を実施する。	3.4	41.7%	58.3%	0.0%	0.0%	・単独での訓練も増え、煙脱出体験や昼休み中の訓練等より様々な場面での避難訓練を行うことができた。(他4) ・被災教員の話聞けることは貴重な機会である。 ・生徒に防災意識が身についている。	・さらに、不測の事態など、多様な状況下で訓練を実施する必要がある。 ・訓練や全体学習の時だけで終わらせない。	・地震下の火災発生や多くの怪我人が出たという想定時の訓練を行う。 ・放送ができない時の訓練をする。 ・震災体験を語り続ける。	